

<本資料の構成について> ※シート本体は次ページからとなります。

- ・本資料は、管理計画の **6. 管理の方策 (1)生態系の保全 1) 生態系の修復と固有種等の絶滅回避** の各島の「長期目標」及び「管理の方策」をご議論いただくために整理したものです。
- ・管理計画及びアクションプランと本資料の関係性については、以下のとおりです。

○管理計画構成案

⑤ 東島（ひがしじま）【父島列島】

◆現況と課題

現況と課題・（島全体の）長期目標

- ・各島における保全対象種、脅威等に関する現況と課題を記載
- ・各長期目標、管理の方策の総括を記載

⇒本日の議論の対象外（追ってメール等で照会予定）

◆長期目標

クマネスミを根絶した島であり、固有陸産貝類や海鳥類等の保全に努めることにも、その生態系回復過程をモニタリングしつつ必要な保全対策を行う。

<主な保全対象種・脅威> ※赤字は直近5年での事業予定があるもの

長期目標	保全対象種	脅威
①在来植生を保全し、固有陸産貝類等の生息環境を維持する。	・ヒトハノミガイ、ハタイエンザガイ等の陸産貝類 ・オオハマギキョウ、ツルワダン等の固有植物	・外来ネズミ類（再侵入の抑制・監視・警戒） ・ギンネム等の外来植物 ・シロツブ
②海鳥類の繁殖地を保全する。	・オガサワラヒメミズナギドリ、セグロミズナギドリ、オーストンウミツバメ、アナドリ等の海鳥類	・外来植物

◆管理の方策

長期目標①：在来植生を保全し、固有陸産貝類等の生息環境を維持する。

- ・オオハマギキョウ、ツルワダンなどの固有植物の生育地・群落地、また固有陸産貝類の生息地を保全するため、外来植物の排除を進める。
- ・他島からの外来ネズミ類の侵入が懸念されるため、生息地保全のために外来ネズミ類による固有陸産貝類への影響把握調査を継続して実施する。

長期目標②：海鳥類の繁殖地を保全する。

- ・外来植物の排除等により、オガサワラヒメミズナギドリ、セグロミズナギドリ、オーストンウミツバメ、アナドリなどの海鳥類の繁殖地を保全する。

○アクションプラン案（参考資料6）

長期目標	保全対象	脅威	2023～2028年度の達成目標	No.	取組内容	実施機関
①在来植生を保全し、固有陸産貝類等の生息環境を維持する。	ヒトハノミガイ、ハタイエンザガイ等の陸産貝類	外来ネズミ類（再侵入の抑制・監視・警戒）	・固有陸産貝類の個体数維持	東-1	・固有陸産貝類の生息状況調査 ・陸産貝類へのネズミ食害状況調査	環境省
②海鳥類の繁殖地を保全する。	オオハマギキョウ、ツルワダン等の固有植物	ギンネム等の外来植物	・民間団体などと協働・連携して海鳥類繁殖環境の修復	東-2	・民間団体と協定（東島森林性海鳥の地）を結び、海鳥繁殖環境モニタリング、森林内における外来樹種の修復実験等を実施	林野庁
	オガサワラヒメミズナギドリ、セグロミズナギドリ、オーストンウミツバメ、アナドリ等の海鳥類	外来植物				

長期目標（・保全対象種・脅威）
⇒本日の議論の対象

第4期 AP案との対応を整理
※管理の方策議論時の参考情報として整理

管理の方策
⇒本日の議論の対象

対策の方向性
APに記載している対策の方向性（取組のレベル・段階）を整理したもの
※管理の方策議論時の参考情報として整理

○本資料

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性										第4期 APとの対応		
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移植	再生・回復	経過観察		その他	
・ヒトハノミガイ、ハタイエンザガイ等の陸産貝類 ・オオハマギキョウ、ツルワダン等の固有植物	・外来ネズミ類（再侵入の抑制・監視・警戒） ・ギンネム等の外来植物	①在来植生を保全し、固有陸産貝類等の生息環境を維持する。	・オオハマギキョウ、ツルワダンなどの固有植物の生育地・群落地、また固有陸産貝類の生息地を保全するため、外来植物の排除を進める。 ・他島からの外来ネズミ類の侵入が懸念されるため、生息地保全のために外来ネズミ類による固有陸産貝類への影響把握調査を継続して実施する。				●									東-1
・オガサワラヒメミズナギドリ、セグロミズナギドリ、オーストンウミツバメ、アナドリ等の海鳥類	・外来植物	②海鳥類の繁殖地を保全する。	・外来植物の排除等により、オガサワラヒメミズナギドリ、セグロミズナギドリ、オーストンウミツバメ、アナドリなどの海鳥類の繁殖地を保全する。				●									東-2

※保全対象種／脅威のうち、赤字は直近5年で事業予定があるもの、黒字は事業予定のないもの。

【父島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性										第4期APとの対応		
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察		その他	
<ul style="list-style-type: none"> 東平一帯の乾性低木林、島の中央部～南部のムニンヒメツバキ林 モクタチバナやウドノキを含む湿性高木林 ムニンツツジ、ウチダシクロキ、コバトベラ、ムニンノボタン、アサヒエビネ、ムニンビャクダン等の固有植物 	<ul style="list-style-type: none"> 外来植物（モクマオウ、リュウキュウマツ、アカギ、ギンネム、キバンジロウなど） ノヤギ ネズミ類 	①固有植生（乾性低木林、ムニンヒメツバキ林）を修復する。	<ul style="list-style-type: none"> 現状のリソースを考慮し、父島元来の植生がよく残されている東平一帯の乾性低木林を優先的に保全するために継続して外来樹木の排除を進めるとともに、父島全島に繁茂した外来植物の対策について検討を進める。 	●	●	●	●								父-3、父-4、父-5、父-6、父-9	
			<ul style="list-style-type: none"> ウチダシクロキ、コバトベラ、ムニンノボタン、アサヒエビネなどの固有植物種について定期的な巡視、モニタリング及びその結果を踏まえた外来種対策等による環境改善を継続することにより生育地を保全する。 	●		●	●			●	●	●	●			父-2、父-7、父-8
			<ul style="list-style-type: none"> 在来植生の脅威となるノヤギについては、モニタリングの状況を踏まえ計画的に個体数を低下させ、根絶を目指す。 						●							父-1、父-2
<ul style="list-style-type: none"> 夜明山のカタマイマイや巽崎のチチジマカタマイマイ等 エリマキガイやノミガイ類などの在来種 	<ul style="list-style-type: none"> ニューギニアヤリガタリクウズムシ ネズミ類 	②進化の過程を示す固有陸産貝類の個体群再生を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 島内や内地での域外保全を継続するとともに、陸産貝類の継続的な生息が可能と判断された環境には、積極的に補強、再導入を進め、個体群再生を進める。 	●						●	●	●		父-10、父-11、父-12		
			<ul style="list-style-type: none"> 父島におけるニューギニアヤリガタリクウズムシの低密度化を目指し、防除技術の開発を進める。 		●	●	●									父-10
<ul style="list-style-type: none"> 東平から時雨山にかけての地域のヒメカタゾウムシ チチジマツチヒメカタゾウムシ、東平周辺のオガサワラコバネカミキリ父島亜種等 樹上性のヒメカタゾウムシ 	<ul style="list-style-type: none"> 外来植物（モクマオウ、リュウキュウマツ、アカギ、ギンネム、キバンジロウなど） グリーンアノール オオヒキガエル 	③固有昆虫類の生息地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> 固有の昆虫類については、グリーンアノール及びオオヒキガエルのエリア排除を進めることにより、生息地を保全する。 				●							—		
			<ul style="list-style-type: none"> 東平周辺に残る夜行性のオガサワラコバネカミキリ父島亜種など、残された固有種を保全する。 			●				●						—
<ul style="list-style-type: none"> アカガシラカラスバト オガサワラノスリ オガサワラオオコウモリ 海岸林 	<ul style="list-style-type: none"> ノネコ 人為的攪乱 	④アカガシラカラスバト等の鳥類やオガサワラオオコウモリの生息地を保全するとともに、他の地域の取組と併せて安定的な生息を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> アカガシラカラスバトについては、東平にサンクチュアリーを設定し、水場の確保や巡視活動などの継続した各種対策の実施により生息地を保全するとともに、域外保全を継続することにより、種の系統保存及び技術継承を図る。 							●			●		父-13、父-17	
			<ul style="list-style-type: none"> オガサワラオオコウモリについては、外来植物の排除等により自然下の餌環境の改善を行う。 			●							●			父-14
			<ul style="list-style-type: none"> ノネコについては排除事業を継続して実施し、根絶を目指す。 		●				●							父-13、父-16
			<ul style="list-style-type: none"> 地元 NPO や動物対処室等と連携し、鳥類やオガサワラオオコウモリ等の傷病個体の対応（保護、治療、内地への移送、野生復帰等）を行う。 								●	●	●			父-15
<ul style="list-style-type: none"> オガサワラヨシノボリやヒラマキガイ科の未記載種などの固有陸水動物 オガサワラベニシオマネキなどの内湾性底生動物 	<ul style="list-style-type: none"> ヌノメカワニナなど 															

【巽島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他	
・チチジマカタマイマイ、アナカタマイマイをはじめとする固有陸産貝類	・クマネズミ ・貝食性プラナリア類(未侵入)	①進化の過程を示す固有陸産貝類の生息地を保全するとともに、個体群再生を目指す。	・ベイトステーションの設置等によりクマネズミの超低密度状態を維持し、固有陸産貝類の生息地を保全する。					●							巽-1
			・飼育個体の野生復帰により、固有陸産貝類の巽島個体群のさらなる補強を進める。	●							●	●	●		巽-2、巽-3

【兄島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他	
・乾性低木林と混在する岩上荒原植生、ムニンヒメツバキ林 ・岩上荒原植生（イネ科のマツバシバ、シマカモノハシ、シマギョウギンバ、カヤツリグサ科のシマイガクサ等）	・外来植物(モクマオウ、リュウキユウマツ、ギンネム、アイダガヤ、オオバナセンダングサ、シチヘンゲ)	①乾性低木林を修復する。	・外来植物の分布拡大を防ぐためにギンネムやシチヘンゲなどの排除事業を継続して実施するとともに、岩上荒原植生保全のためにアイダガヤやオオバナセンダングサ等の外来植物への対策を進める。		●	●	●					●		兄-1、兄-2、兄-4	
			・モニタリングを進めながら、乾性低木林と混在する岩上荒原植生や、周辺の凹地や谷底に分布するムニンヒメツバキ自然林も含めて、在来植生を適切に保全し修復を進める。	●			●			●	●	●			兄-2
・固有陸産貝類	・クマネズミ	②進化の過程を示す固有陸産貝類の生息地を保全する。	・固有陸産貝類については生息状況のモニタリングを進めながら、脅威となるクマネズミの根絶を目指し、薬剤の散布や新たな防除技術の開発等を進める。	●	●	●		●						兄-3、兄-5	
・オガサワラハンミョウや固有トンボ類、ヒメカタゾウムシ類、カミキリ類などの固有昆虫類	・外来植物(モクマオウ、リュウキユウマツ) ・グリーンアノール ・オガサワラリクヒモムシ	③オガサワラハンミョウなどの固有昆虫類の生息地を保全する。	・グリーンアノールの島内での分布拡大、さらには弟島などの未侵入島しょ地域への拡散を防ぐ、さらには固有昆虫類の拠点防衛対策として侵入防止柵の設置、機能維持、トラップによる捕獲等の対策を継続して実施する。	●	●	●	●							兄-6、兄-7、兄-8、兄-9、兄-10、兄-13	
			・特に、オガサワラハンミョウについては、生息状況の把握を継続しながら、生息域外での累代飼育、域内への再導入、生息環境の維持創出手法の開発を進め、個体群の再生を図る。						●	●	●	●		兄-11	
			・兄島からのグリーンアノールの根絶をめざし、防除技術の開発を進める。		●			●						兄-6	
			・固有トンボ類の生息地を保全するため、モニタリングや生息環境の創出を図る。	●								●		兄-12	
・アカガシラカラスバト ・オガサワラノスリ ・オガサワラオオコウモリ		④アカガシラカラスバト等の鳥類やオガサワラオオコウモリの生息地を保全するとともに、他の地域の取組と併せて本種の安定的な生息を目指す。	・アカガシラカラスバトやオガサワラノスリ、オガサワラオオコウモリ等は父島や弟島など島間を移動していることから、兄島においても生息状況の把握を継続して実施する。								●		兄-14		
・オナガミズナギドリ															

【弟島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移植	再生・回復	経過観察	その他	
・島中央部のムニンヒメツバキ林等の在来植生	・モクマオウ、ガジュマル、タケ・ササ類 ・クマネズミ	①ムニンヒメツバキ林を修復する。	・弟島の多くの面積を占め、島の中央部に広く分布する自然性の高いムニンヒメツバキ林は、モクマオウ及びクマネズミの排除を進めるとともに、モモタマナ等の植栽により在来植生を回復する。 ・その他、コウライシバやオガサワラススキ等の在来草本についても、外来樹木の排除により保全を進める。				●						●		弟-1、弟-2、弟-3、弟-4
							●								
・オガサワラグワの自生個体群	・クマネズミ ・シマグワ ・稔性低下 ・気候変動	②オガサワラグワの弟島個体群を維持する。	・弟島及び孫島におけるシマグワの排除、クマネズミ防除対策等により、オガサワラグワの自生個体群を維持する。また、苗木の育成、植栽等により、オガサワラグワ個体群のバックアップ地を形成する。	●			●			●	●		●		弟-5、弟-6、弟-7
・島の南部のヤマキサゴ類、エンザガイ類、中部のヤマキサゴ類等	・クマネズミ、貝食性コウガイビル (<i>Bipalium muninense</i>)	③進化の過程を示す固有陸産貝類の生息地を保全する。	・弟島の南部のヤマキサゴ類やエンザガイ類、中部の樹上性のヤマキサゴ類、孫島のエンザガイ類等の生息環境を把握するために、継続的にモニタリング実施する。	●			●								弟-8
・固有昆虫類（固有トンボ類5種など）及び他の水生生物	・シュロガヤツリ等の外来植物 ・グリーンアノール（未侵入） ・（繁殖地となる）水辺の干ばつ	④固有トンボ類や水生生物の生息地を保全する。	・固有トンボ類等のモニタリングを継続しながら、生息環境の維持、改善のために外来植物の排除を進める。				●						●		弟9、弟-10
			・また、他島からグリーンアノールが侵入する可能性が懸念されることから、侵入監視調査を継続して実施する。	●											弟-11
・アカガシラカラスバト ・オガサワラノスリ ・オガサワラオオコウモリ		⑤アカガシラカラスバト等の鳥類やオガサワラオオコウモリの生息地を保全するとともに、他の地域の取組と併せて本種の安定的な生息を目指す。	・アカガシラカラスバトやオガサワラノスリ、オガサワラオオコウモリ等は島間を移動していることから、一体的な保全対策を進めるために、弟島においても生息状況の把握を継続して実施する。	●											弟-12
・クロアシアホウドリ ・オナガミズナギドリ	・クマネズミ	⑥弟島の海鳥類の繁殖地を保全する。	・アホウドリ類の営巣地を確認し、繁殖数の動向を調査する。										●		弟-13
			・クマネズミ類の再侵入を抑制・監視・警戒する。												
・クロアシアホウドリ		⑦孫島の海鳥類の繁殖地を保全する。	・アホウドリ類の営巣地を確認し、繁殖数の動向を調査する。										●		弟-14

【西島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移植	再生・回復	経過観察	その他	
・ヤマキサゴ類、エンザガイ類等の固有陸産貝類 ・固有甲虫や固有ハナバチ ・オガサワラアザミなどの固有植物	・モクマオウ、ギンネム、シマサルスベリ、ソウジユなどの外来種 ・クマネズミ ・グリーンアノール（未侵入）	①在来植生を保全し、固有陸産貝類や固有昆虫類等の生息環境を維持する。	・島内環境の維持、改善のために継続したモニタリングの実施、外来種の排除を進める。	●				●		●					西-1、西-2、西-3

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応	
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移植	再生・回復	経過観察	その他		
<ul style="list-style-type: none"> アカガシラカラスバト オガサワラノスリ オガサワラオオコウモリ 		②アカガシラカラスバト等の鳥類やオガサワラオオコウモリの生息地を保全するとともに、他の地域の取組と併せて本種の安定的な生息を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> アカガシラカラスバトやオガサワラノスリ、オガサワラオオコウモリ等は島間を移動していることから、一体的な保全対策を進めるために、西島においても生息状況の把握を継続して実施する。 	●												西-4
<ul style="list-style-type: none"> 海鳥類 																

【東島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応		
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移植	再生・回復	経過観察	その他			
<ul style="list-style-type: none"> ヒトハノミガイ、ハタイエンザガイ等の陸産貝類 オオハマギキョウ、ツルワダン等の固有植物 	<ul style="list-style-type: none"> クマネズミ ギンネム等の外来植物 	①在来植生を保全し、固有陸産貝類等の生息環境を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> オオハマギキョウ、ツルワダンなどの固有植物の生育地・群落地、また固有陸産貝類の生息地を保全するため、外来植物の排除を進める。 他島からの外来ネズミ類の侵入が懸念されるため、生息地保全のために外来ネズミ類による固有陸産貝類への影響把握調査を継続して実施する。 				●									—	
<ul style="list-style-type: none"> オガサワラヒメミズナギドリ、セグロミズナギドリ、オーストンウミツバメ、アナドリ等の海鳥類 	<ul style="list-style-type: none"> 外来植物 	②海鳥類の繁殖地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> 外来植物の排除等により、オガサワラヒメミズナギドリ、セグロミズナギドリ、オーストンウミツバメ、アナドリなどの海鳥類の繁殖地を保全する。 	●													東-1
							●										東-2

【南島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応		
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移植	再生・回復	経過観察	その他			
<ul style="list-style-type: none"> オガサワラアザミやイソマツ、ツルワダン、アツバクコ、コハマジンチョウ等の固有植物 クサトベラ、モンパノキ等の海岸植生 固有訪花性昆虫 オナガミズナギドリ、アナドリ、カツオドリ等の海鳥類 	<ul style="list-style-type: none"> シンクリノイガ等の外来植物 ネズミ類 グリーンアノール（未侵入） セイヨウミツバチ 外来アリ類等の外来種 シロツブ 	①石灰岩地の海岸植生を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> オガサワラアザミやツルワダン、アツバクコなどの固有・希少植物の生育地を保全するために、シンクリノイガ等の外来植物の排除を継続する。 ネズミ類の排除により、希少植物等の在来植生の生育環境を保全する。 他島からグリーンアノール等の未侵入の外来種が侵入する可能性が懸念されることから、侵入監視調査を継続して実施する。 					●								南-1	
				●				●									南-2
				●													南-3
		②海鳥類の繁殖地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> ネズミ類の排除等により、オナガミズナギドリ、アナドリなどの海鳥類の繁殖地を保全する。 海鳥が外来植物の付着型種子散布者となっている可能性があるため、無人島間での散布を抑制する。 					●									南-2
							●										南-1
<ul style="list-style-type: none"> チヂマカタマイマイ、アナカタマイマイ ボニンスナガイ、クビキレガイ 	<ul style="list-style-type: none"> ネズミ類 貝食性プラナリア類（未侵入） 外来アリ類 	③進化の過程を示す固有陸産貝類の個体群再生を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 試験的に固有陸産貝類の再導入を実施し、その試行結果等を踏まえ、方針や手法等を見直しながら、南島における固有陸産貝類の個体群再生を目指す。 	●			●				●	●	●			南-4、南-5	

【母島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応			
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他				
<ul style="list-style-type: none"> 石門一帯の湿性高木林、主稜部雲霧帯のワダンノキ群落、中北部のモクタチバナ林・ムニンヒメツバキ林等の湿性高木林 南崎地域や東山の母島列島型乾性低木林 タイヨウフウトウカズラ、セキモンノキ、オガサワラグワ、ヒメタニワタリ、ワダンノキ、ホシツルラン、セキモンウライソウ等の固有・希少植物 	<ul style="list-style-type: none"> 外来種 特にアカギ、モクマオウ、ギンネム 	①固有植生（湿性高木林、モクタチバナ林、母島列島型乾性低木林及び雲霧帯のワダンノキ群落）を修復する。	<ul style="list-style-type: none"> 石門一帯の湿性高木林、主稜部雲霧帯のワダンノキ群落、島の中北部に広く分布するモクタチバナ林及びムニンヒメツバキ林では、外来植物の排除等を継続する。 				●									母-2、母-9		
			<ul style="list-style-type: none"> そのうち、主な影響要因であるアカギは、影響の最小化が重要であることから、排除する地域の優先順位付けや効率的手法の検討などを行い効果的に排除する。 			●	●											母-5、母-6、母-7
			<ul style="list-style-type: none"> 南崎地域の母島列島乾性低木林では、陸産貝類などの固有種に配慮しながら、モクマオウやギンネムなどの外来種の排除を進める。 							●								母-8
			<ul style="list-style-type: none"> 固有植物について定期的な巡視、モニタリング及びその結果を踏まえた外来種対策を継続することにより生息地を保全する。 	●						●		●	●	●				母-1、母-3、母-4
<ul style="list-style-type: none"> 西台、東崎、南崎のカタマイマイ属 石門や乳房山のテンスジオカモノアラガイ属 	<ul style="list-style-type: none"> モクマオウ、ギンネム等 ツヤオオズアリ、ネズミ類、エリマキコウガイビル、リクヒモムシ、アジアベッコウマイマイ等の外来種 	②進化の過程を示す固有陸産貝類の絶滅を回避する。	<ul style="list-style-type: none"> 固有陸産貝類の貴重な生息地である南崎など南部一帯、石門地域を含む脊梁部一帯、西側の海岸線一帯等においては生息環境を維持するため、モクマオウやギンネム等の外来植物の排除を実施する。 				●									母-10		
			<ul style="list-style-type: none"> また、域外保全により系統の維持を図るとともに、陸産貝類の継続的な生息が可能と判断された環境には、積極的に補強、再導入を進め、個体群の保全を進める。 	●						●	●	●	●				母-11	
			<ul style="list-style-type: none"> 固有陸産貝類の脅威となる外来種については、拡散防止、排除を実施し、外来種による影響を可能な限り排除する。 	●	●		●											母-12、母-13、母-14、母-17
			<ul style="list-style-type: none"> 特に、エリマキコウガイビルやアジアベッコウマイマイ等については、より効果的な排除方法の検討、根絶・低密度化に向けた技術開発を進める。 	●	●	●	●											母-15、母-16
<ul style="list-style-type: none"> 石門地域、中北部地域及び南崎地域のオガサワラシジミ、オガサワラセセリ、ハナダカトンボ等の固有昆虫類 生息地の植生構成種であるオガサワラススキ、オオバシマムラサキ、コブガシ 	<ul style="list-style-type: none"> アカギ等の外来植物 グリーンアノール リクヒモムシ オオヒキガエル 	③固有昆虫類の生息地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> オガサワラセセリやハナダカトンボなど固有昆虫類については、外来植物やグリーンアノール等の排除及び食餌植物の保全を継続することにより、生息地を保全する。 				●								食餌植物の保全	母-19、母-20、母-22		
			<ul style="list-style-type: none"> オガサワラシジミについては、モニタリング、一斉捕獲調査、食痕調査等の実施について検討する。 	●														母-18、母-21
<ul style="list-style-type: none"> アカガシラカラスバト オガサワラノスリ オガサワラカワラヒワ オガサワラオオコウモリ ハハジマメグロ 	<ul style="list-style-type: none"> ノネコ ネズミ類 その他の人為的影響 	④アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワ等の鳥類やオガサワラオオコウモリの生息地を保全するとともに、他の地域の取組と併せて安定的な生息を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> アカガシラカラスバト、オガサワラオオコウモリを小笠原諸島全体で安定的な個体数まで増加させるために、モニタリングやノネコの捕獲等を実施し、その結果を踏まえ必要な対策を検討する。 	●				●								母-23、母-25		
			<ul style="list-style-type: none"> アカガシラカラスバトについては、域外保全を継続することにより、種の系統保存及び技術継承を図る。 							●								母-26
			<ul style="list-style-type: none"> 南部はオガサワラカワラヒワの採食の場となっているため、ノネコの排除を継続しながら、生息地の適切な保全管理を進めるとともに、域外保全と野生復帰を実施する。 							●	●	●						母-27、母-28

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応		
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他			
			・海鳥類の重要な生息地である南崎地域では、引き続きノネコの排除等の効果的な保全対策を検討する。			●	●										母-29
			・地元 NPO や父島の動物対処室とも連携し、鳥類やオガサワラオオコウモリ等の傷病個体の対応（保護、治療、内地への移送、野生復帰等）を行う。								●	●	●				母-24
・カツオドリ、オナガミズナギドリ																	

【向島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応		
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他			
・母島列島型乾性低木林 ・ムニンクロキ、オオハマギキョウ等の固有植物 ・カタマイマイ類等の固有陸産貝類 ・ムコウジマヒメカタゾウムシ、固有カミキリ類、固有ハナバチ類、固有タマムシ類等の昆虫類	・モクマオウ、ギンネム等の外来植物 ・グリーンアノール ・ドブネズミ	①母島列島型乾性低木林を保全し、固有陸産貝類の生息環境を維持する。	・ムニンクロキなどの固有植物の生育地、島固有の固有陸産貝類や昆虫相の生息地でもある母島列島型乾性低木林を保全するために、モクマオウやギンネムなどの外来種による影響を排除する。				●								●		向-1、向-2
			・母島からのグリーンアノールの侵入の可能性が考えられることから、固有昆虫類保全のため、グリーンアノールの生息確認調査を継続する。	●													向-3
・オガサワラカワラヒワ	・ドブネズミ	②オガサワラカワラヒワ等の鳥類の生息地を保全する。	・オガサワラカワラヒワの絶滅危機からの脱却のために、オガサワラカワラヒワのモニタリングを進めながら、脅威となる外来ネズミ類を排除する。	●	●	●			●								向-4

【姉島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応		
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他			
・カタマイマイ類、ヤマキサゴ類、キセルモドキ類等の固有陸産貝類 ・台地上の母島列島型乾性低木林 ・シمامロ、オオハマギキョウ、ヒメマサキ等の固有植物 ・アネジマヒメカタゾウムシ等の固有昆虫類	・ドブネズミ ・モクマオウ等の外来植物	①母島列島型乾性低木林を保全し、固有陸産貝類や固有鳥類等の生息環境を維持、修復する。	・台地上に分布する母島列島型乾性低木林は、モクマオウなどの外来種の排除により保全する。				●										—
			・シمامロ、オオハマギキョウ、ヒメマサキなどの固有植物や固有陸産貝類の生育・生息地を保全する。										●				姉-1
・オガサワラカワラヒワ	・ドブネズミ	②オガサワラカワラヒワ等の鳥類の生息地を保全する。	・オガサワラカワラヒワの絶滅危機からの脱却のために、オガサワラカワラヒワのモニタリングを進めながら、脅威となる外来ネズミ類を排除する。	●		●			●								姉-2
・クロアシアホウドリ		③姉島南鳥島の海鳥類の繁殖地を保全する。	・アホウドリ類の営巣地を確認し、繁殖数の動向を調査する。										●				姉-3

【妹島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応	
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他		
<ul style="list-style-type: none"> 母島列島型乾性低木林 ヘラナレン、ユズリハワダン、シマカコソウ等の固有植物 カタマイマイ類、エンザガイ類、ヤマキサゴ類、キセルモドキ類等の固有陸産貝類 オガサワラビロウドカミキリ等の固有昆虫類 	<ul style="list-style-type: none"> モクマオウ、ギンネム等の外来種 	①母島列島型乾性低木林を保全し、固有陸産貝類等の生息環境を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> 良好に残された母島列島型乾性低木林を保全するために、ギンネムなどの外来種の排除を実施する。 				●								妹-2	
			<ul style="list-style-type: none"> 固有陸産貝類の生息地を保全するため、継続して生息状況調査を実施する。 	●												
<ul style="list-style-type: none"> オガサワラカワラヒワ 	<ul style="list-style-type: none"> ドブネズミ 	②オガサワラカワラヒワ等の鳥類の生息地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> オガサワラカワラヒワの絶滅危機からの脱却のために、オガサワラカワラヒワのモニタリングを進めながら、脅威となる外来ネズミ類を排除する。 	●					●							妹-3
<ul style="list-style-type: none"> クロアシアホウドリ 		③妹島鳥島の海鳥類の繁殖地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> アホウドリ類の営巣地を確認し、繁殖数の動向を調査する。 										●			妹-4

【姪島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応		
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他			
<ul style="list-style-type: none"> カタマイマイ類やキセルガイモドキ類等の陸産貝類 母島列島型乾性低木林 シマムロ、オオハマギキョウ、ヘラナレン等の固有植物 オガサワライトトンボ等の固有昆虫類 	<ul style="list-style-type: none"> ギンネム等の外来種 	①母島列島型乾性低木林を保全し、固有陸産貝類や固有昆虫類等の生息環境を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> ギンネムなどの外来種の排除により、良好に残された母島列島型乾性低木林を適切に保全する。 										●			—	
			<ul style="list-style-type: none"> 固有陸産貝類の生息地を保全するため、継続して生息状況調査を実施する。 	●													
<ul style="list-style-type: none"> オガサワラカワラヒワ 	<ul style="list-style-type: none"> ドブネズミ 	②オガサワラカワラヒワ等の鳥類の生息地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> オガサワラカワラヒワの絶滅危機からの脱却のために、オガサワラカワラヒワのモニタリングを進めながら、脅威となる外来ネズミ類を排除する。 	●					●								姪-2

【平島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応				
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他					
<ul style="list-style-type: none"> オガサワラススキ、オオハマギキョウ等の固有植物 エンザガイ類等の陸産貝類 オガサワラセセリ等の固有昆虫類 	<ul style="list-style-type: none"> モクマオウやガジュマル、ギンネム等の外来樹木 グリーンアノール 	①在来植生を保全し、固有陸産貝類の生息環境を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> 固有陸産貝類の生息地を保全するため、継続して生息状況調査を実施する。 	●			●										平-1		
			<ul style="list-style-type: none"> ギンネムなどの外来種の駆除により、在来植生を適切に保全する。 	●															平-2
			<ul style="list-style-type: none"> 母島からのグリーンアノールの侵入の可能性が考えられることから、固有昆虫類保全のため、グリーンアノールの侵入確認調査を継続する。 	●															
<ul style="list-style-type: none"> オガサワラカワラヒワ 	<ul style="list-style-type: none"> ドブネズミ 	②オガサワラカワラヒワ等の鳥類の生息地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> オガサワラカワラヒワの絶滅危機からの脱却のために、オガサワラカワラヒワのモニタリングを進めながら、脅威となる外来ネズミ類を排除する。 	●					●									平-4	

【聳島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他	
<ul style="list-style-type: none"> モクダチバナ林やシマイスノキ等を含む乾性低木林 オガサワラアザミ、シマザクラ、ハマゴウ等の海岸植生 ムコジマトラカミキリやツマベニタマムシ（聳島亜種）等の固有昆虫類 ノミガイ類やキビオカチグサ類、スナガイ類等の小型の陸産貝類 	<ul style="list-style-type: none"> ギンネム、タケ・ササ類等の外来植物 シロツブ 	①モクダチバナ林を中心とした在来植生を保全し、固有昆虫類等の生息環境を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> 植生等の在来生態系の回復状況を把握するためのモニタリングを継続する。 											●	聳-1
			<ul style="list-style-type: none"> 外来植物の排除により在来樹林を回復させ、聳島列島固有の昆虫類の生息地を保全する。 継続した排除作業を実施しているギンネム、シチヘンゲについては、メンテナンスを継続し、在来植生を維持する。 タケ・ササ類などその他侵略的外来植物の低密度化のための排除作業を適宜実施する。 												
<ul style="list-style-type: none"> アホウドリ、コアホウドリ、クロアシアホウドリ オナガミズナギドリ、アナドリ等の海鳥類 	<ul style="list-style-type: none"> 外来植物 	②海鳥類の繁殖地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> アホウドリ類の営巣地を確認し、繁殖数の動向を調査する。 				●							●	聳-3、聳-4

【北之島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他	
<ul style="list-style-type: none"> オガサワラアザミ等の在来植生 	<ul style="list-style-type: none"> 侵略的外来種 人為的影響 	①在来植生を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> 現在も島に生息している固有種の保全を考慮した上で、モニタリングを進めながら侵略的外来種を排除する。 											●	—
<ul style="list-style-type: none"> オナガミズナギドリ、アナドリ、シロハラミズナギドリ、アホウドリ類 		②海鳥類の繁殖地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きモニタリングを進めながらオナガミズナギドリやアナドリなどの繁殖地を保全する。 											●	—

【媒島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応	
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他		
<ul style="list-style-type: none"> モクダチバナ林 媒島固有のカタマイマイ類、エンザガイ類 ヤマキサゴ類やヒラセキセルガイモドキ、ノミガイ類等の陸産貝類 オガサワラチビクワガタ聳島列島亜種等の固有昆虫類 	<ul style="list-style-type: none"> 土壌流出 ギンネム、タケ・ササ類等の外来植物 	①モクダチバナを含む在来林を回復させ、固有陸産貝類や固有昆虫類等の生息環境を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> 植生等の在来生態系の回復状況を把握するためのモニタリングを継続する。 											●	媒-1	
			<ul style="list-style-type: none"> 裸地部の土壌流出防止等、植生基盤を確保することにより、斜面地・谷部の植生を回復させる。 			●	●					●	●		土砂流出防止	媒-2
			<ul style="list-style-type: none"> 屏風山を中心とした固有陸産貝類や固有昆虫類の生息地を保全するため、継続して生息状況調査を実施する。 ギンネム、タケ・ササ類などの外来植物を排除することで、固有陸産貝類や固有昆虫類の生息環境を保全する。 	●			●									媒-3
<ul style="list-style-type: none"> アホウドリ、コアホウドリ、クロアシアホウドリ オナガミズナギドリ、オガサワラヒメミズナギドリ、カツオドリ、アナドリ等の海鳥類 	<ul style="list-style-type: none"> ギンネム、タケ・ササ類等の外来種 	②海鳥類の繁殖地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> アホウドリ類の営巣地を確認し、繁殖数の動向を調査する。 											●	媒-4	

【嫁島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応	
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他		
<ul style="list-style-type: none"> 在来植生を中心とした生態系 ヤマキサゴ類やノミガイ類等の陸産貝類 スジヒメカタゾウムシ等の固有昆虫類 	<ul style="list-style-type: none"> タケ・ササ類 	①在来植生を保全し、固有陸産貝類等の生息環境を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> 植生等の在来生態系の回復状況を把握するためのモニタリングを継続する。 										●		嫁-1	
			<ul style="list-style-type: none"> タケ・ササ類などの外来植物を排除し、固有陸産貝類の生息環境を保全する。 													
<ul style="list-style-type: none"> アホウドリ、コアホウドリ、クロアシアホウドリ オナガミズナギドリ等の海鳥類 		②海鳥類の繁殖地を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> アホウドリ類の営巣地を確認し、繁殖数の動向を調査する。 											●		嫁-3

【北硫黄島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応	
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他		
<ul style="list-style-type: none"> 歴史の浅い海洋島特有の生態系 海鳥類 	<ul style="list-style-type: none"> シチヘンゲ等の外来植物 クマネズミ等の外来種 	①海洋島特有の生態系を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> 海洋島特有の生態系が維持されており、必要に応じ現況把握のための調査を実施する。 	●												北硫黄-1
			<ul style="list-style-type: none"> 摂食による影響が懸念されるクマネズミなどの外来種の排除を検討し、今後もモニタリングを進めながら生息地の保全管理を進める。 													

【南硫黄島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応	
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他		
<ul style="list-style-type: none"> 歴史の浅い海洋島特有の生態系 	<ul style="list-style-type: none"> 人為的影響 シンクリノイガ等の外来種 	①調査研究も含めた人為影響を必要最小限にとどめ、原生の姿を残す海洋島特有の生態系を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> 海洋島特有の生態系が原生的な状態で維持されており、必要に応じ現況把握のための調査を実施する。 	●												南硫黄-1
			<ul style="list-style-type: none"> それにより原生の海洋島生態系の仕組みを明らかにするとともに、外来種の侵入状況を継続的に監視し、必要に応じ対策を実施する。 													

【西之島】

対象		長期目標	管理の方策	対策の方向性											第4期APとの対応	
保全対象種	脅威			状況調査	技術開発	対策検討	エリア排除	全島低密度化	全島根絶	保護・飼育	植栽・移殖	再生・回復	経過観察	その他		
<ul style="list-style-type: none"> 歴史の浅い海洋島特有の生態系 原生状態の始原生態系における成立プロセス 	<ul style="list-style-type: none"> 外来種 人為的攪乱 	①海洋島形成過程の初期にある西之島の生態系を人為的攪乱がないよう保全する。	<ul style="list-style-type: none"> 現況把握のための調査を実施して遷移による変化等を把握し、科学的価値を整理する。 	●												西之島-1
			<ul style="list-style-type: none"> また、人為的攪乱が生じないように、引き続き上陸ルールを運用するとともに、必要な保護担保措置や管理方法の検討を進める。 													